

「医療」「教育」に重点

平成23年度予算(前年度比7.1%増) 総額 784億6,169万1千円

市の財政状況は、歳入面で市税の減少傾向が続く中、歳出面では職員などの人件費の削減が図られているものの、福祉関連事業が依然として高い増加傾向を示しており、財政運営は厳しさを増しています。

このような状況の下、平成23年度予算は、事業仕分けや補助金の見直しを実施しつつ、「救急医療体制の確保」や「子どもたちの学習環境の充実」などの事業に重点を置き編成しました。

平成23年度予算の総額は、784億6,169万1千円(前年度比7.1%増)で、内訳は次の通りです。

- 一般会計(前年度比8.0%増) 405億9,330万円
- 特別会計(前年度比0.5%減) 185億8,211万3千円
- 企業会計(前年度比18.3%増) 103億6,017万8千円

今月の特集では、新規3事業を取り上げ、紹介します。

※歳出のうち、その他の主な事業については、5ページをご覧ください。

小・中学校にエアコンを設置 …2億5,270万6千円

小・中学校全29校にエアコンを設置します。施設整備維持事業として、2億5,270万6千円を計上しました。

小・中学校の普通教室433室が対象で、工事は主に夏季・冬季休業期間を予定しているため、中学校については平成24年の夏までに、小学校については平成25年の夏までに整備します。

市独自の施策「学校総合支援員」を配置 その他支援員も増員…3,006万6千円

小・中学校教育に係る支援員を配置・増員し、子どもと教師が向き合える時間の充実を図っていきます。

支援員のかたを増員することで、目の届く範囲が広がります。先生と連絡を取り合いながら、子どもたちの健やかな成長を見守っていただきたいと思います。



黒田在住
江田 優子 さん

まず、虐待や保護者の対応、学校運営上の問題、補習学習など、学校を総合的に支援するため、中学校全10校に学校総合支援員1人を配置します。さらに、児童一人ひとりに応じた指導や基礎・基本の確実な定着を図るため、学級数の多い小学校10校に学習支援員を各1人追加配置します。また、国際化教育を推進するため、小・中学校に派遣している英語指導助手を2人増員します。

1市3町の合併後、学校の耐震化もされ、今回はエアコンの設置までしていただくことになり、子どもの環境が良くなることは、保護者としてはうれしいですね。



普濟寺在住
大塚 照江 さん

深谷赤十字病院の医師を確保 …3,655万2千円

深谷市には、県北80万人の生命を支える第3次救急病院の深谷赤十字病院があります。しかし、他の医療機関と同様に医師不足という現状があります。そのため、平成23年度から医師の確保に向けた対策を3本柱で実施します(詳細は左の通り)。

他の自治体が行っている医師育成の奨学金制度は、医学部に合格した生徒を対象に費用の一部を貸与するものですが、深谷市が行う奨学金制度の特色は、受験前の高校生に全額貸与を約束することで、経済的な不安を取り除き、医師への道を進みやすくしている点にあります。今後、日本全国の高校生を対象に募集を行う予定です。

※詳細は、決まり次第、広報ふかやなどでお知らせします。

3本柱による医師の確保対策

- 1 短期的な対策：「寄附講座」を開設
大学に研究資金を提供し、その研究の一環で医師が派遣される「寄附講座」を開設します。これは大学から指導医レベルの医師を派遣してもらい、医師不足対策と研修医の充実に効果のあるものです。
- 2 中期的な対策：「研修医研修資金貸与制度」
研修医に研修資金を貸与します。貸与期間に応じて、一定期間深谷赤十字病院に勤務していただければ、研修資金の返還を免除する制度です。
- 3 長期的な対策：「医師育成奨学金貸与制度」
医師を目指す大学生および高校生を対象に、医学部医学科に要する費用を全額貸与します。貸与期間に応じて、一定期間深谷赤十字病院に勤務していただければ、奨学金の返還を免除する制度です。

Interview インタビュー



深谷市・大里郡医師会
佐々木 優至 会長

環境整備へ光明

現在は、新研修医制度の不備もあり、特に地方では医師不足が深刻です。

このたび、市で実施される3本の医師確保対策は、今後の深谷市の地域医療を考える上で、本当に重要で必要な施策だと思います。市当局や議会のご理解に深く感謝します。医師を目指す若い人の夢を育てる「医師育成奨学金貸与制度」にも感激しました。

医師会単独でやれることは限られます。市や深谷赤十字病院と一体となり、より良い医療環境をつくっていかねばなりません。

深谷赤十字病院
諏訪 敏一 院長

地域医療に全力

地域医療には、病院間での役割分担が不可欠です。現在も病院間で連携し、当院は救命救急センターとしての機能を果たしています。

医師不足の問題を抱える中、市から当院の病院事業にご協力いただくことになり、今回の医師確保対策が有効に働くことを期待しています。

市民の皆様には、かかりつけ医をお持ちいただき、初期医療についてはその先生にお願いし、当院が救急救命医療に専念できる環境づくりにご協力いただきたい。今後も、医師会および市と連携し、県北の医療を支えていく所存です。